

トピックス

1 認知症不安ゼロのまちづくり ～愛知県大府市の取組～

愛知県大府市は、「認知症に対する不安のないまち おおぶ」の実現に向けた「認知症を予防できるまち」「認知症になっても安心して暮らせるまち」づくりのための様々な取組をしている。その一つとして、「認知症不安ゼロ作戦」（老年期の問題に影響を与える因子を抽出するための「脳とからだの健康チェック」、認知機能低下の早期発見を目的とした「プラチナ長寿健診」、セルフケアによる機能低下防止のための「コグニノート」という事業を柱とした大府市におけるプログラム）と称した取組を国立長寿医療研究センターと連携し実施している。



（写真は、「コグニノート」、「コグニノートデータ送信の様子」）

2 住民主体のまちづくり ～三重県名張市の取組～

三重県名張市は、人口の減少と高齢化が進み、急激な高齢社会への対応が大きな行政課題となっている。そのため、おおむね小学校区を単位とした市内全15地域で「地域づくり組織」を設立するとともに、用途自由で補助率や事業の限定がない「ゆめづくり地域交付金」で各地域のまちづくり活動を支援するゆめづくり地域予算制度を創設し、「住民が自ら考え、自ら行う」住民主体のまちづくりを進めてきた。この交付金は、各地域づくり組織におけるさまざまな活動の原資として活用が可能なものであり、地域住民が主体となって地域の課題に柔軟に対応できる制度となっている。各地域づくり組織では、高齢者世帯に対する家事手伝いや安否確認、高齢者による学習支援等の活動が行われている。



（写真は、「生活支援活動」、「学習支援の様子」）

3 コンパクト・プラス・ネットワーク

～高齢社会に対応した富山市のコンパクトなまちづくりの取組～

富山市では、全国に先駆け、「あらゆる世代が暮らしやすいまち」を目指し、公共交通を活性化し、必ずしも車に頼らなくても住みやすく健康で生き生きと歩いて暮らせる「コンパクトなまちづくり」を進めることで、高齢者が地域で安心して自分らしく暮らせる社会づくりに取り組んでいる。また、介護が必要な状態になっても安心して暮らし続けることができる社会を実現するため、高齢者の総合相談窓口であり、地域ケア、介護予防等の拠点である地域包括支援センターを32カ所に設置し、住民が安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいる。



（写真は、「富山ライトレール」、「富山市まちなか総合ケアセンター」）